

【特集】キャリアの過去、現在、未来

—現代行動科学会第34回大会テーマセッションから—

時間軸で紡がれるキャリアの「展開」と「転回」における幸福

奥野 雅子 (岩手大学)

本テーマセッションでは、キャリアが過去、現在、未来に向かって変化していく中で、自身がそれらをどのように受け止め、現在のキャリアに肯定的な認知を付与しているのかについての議論であったと捉えている。

特に、「転職」というキーワードについて各話題提供者はポジティブな視点からプレゼンテーションを行っていた。それは、「前職があるからこそ、現職がある」といった時間軸で紡がれた幸福感であると推察される。つまり、前のキャリアの場においてひたむきに取り組んだ結果、今のキャリアが拓けたという、前のキャリアに対する肯定感である。世間一般に、転職に関するイメージは、今の仕事に対する不全感に動機付けられているといったことがある。今の仕事を否定しているため、次の仕事を求めることになる。しかし、本テーマセッションでは、前の仕事を肯定し、今の仕事に活かしているといった視点が多く語られた。そして、話題提供者すべてが現在の仕事を肯定している。そうならば、未来のキャリアはどこに向かっていくのだろうか。

我々は、自身のキャリアを時間軸の中で見る必要があるように考える。それは、自身に対する俯瞰的視座である。これまでのキャリアがどのような経緯で積み重ねられ、今後、どのように展開していくのかについてのメタ認知であるといえる。このような視点に立つと、本テーマセッションは、転職の肯定的側面を提示することでは決してなく、転職を推奨しているわけでもない。つまり、転職の是非を論議することではなく、自身のキャリアの「展開」あるいは「転回」に対して、どのように意味付けるかということが重要になると考えられる。逆に言えば、ひとつのキャリアを追求している個人にとっても、一見、キャリアの内容は変わらないように見えて、自身の中では、転職した人と同様な「展開」と「転回」が存在するのではないだろうか。

キャリアを追求していくことは、自分がどのように生きていくかということとどうしても重なる。今、自分があるライフサイクルの中で、いかにキャリアを選択してきたか、そして今後それはどのような方向性を有するのかについて自覚的になることが必要である。自分の人生をキャリアと共に捉え、主体的に生きることは幸福なことであると考えられる。本テーマセッションでは、話題提供者が提示するキャリアの展開と転回をフロアーの人たちと共有することで、キャリアを追求することの幸福感を共に味わうといった豊かな内容であったと思う。特に、フロアーで真剣なまなざしで聞き入っていた学生や大学院生には意義深い示唆となったことが考えられる。